

2024年度

(令和6年度)

事業報告書

自 2024年4月 1日

至 2025年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

1. 映画祭事業

- 名称：第 37 回東京国際映画祭
- 主催：公益財団法人ユニジャパン(第 37 回東京国際映画祭実行委員会)
- 共催：経済産業省
国際交流基金(アジア文化交流強化事業)
東京都(コンペティション部門、ユース部門、ウィメンズ・エンパワーメント部門)
- 期間：令和 6 年 10 月 28 日(月)～令和 6 年 11 月 6 日(水)
- 企画：コンペティション、アジアの未来、ガラ・セレクション、ワールド・フォーカス、NIPPON CINEMA NOW、日本映画クラシックス、ユース、アニメーション、TIFF シリーズ、黒澤明賞授賞式、黒澤明の愛した映画、TIFF ティーンズ映画教室 2024、国際交流基金×東京国際映画祭 co-present 交流ラウンジ、ウィメンズ・エンパワーメント 他
- 会場：東京ミッドタウン日比谷、東京宝塚劇場、TOHO シネマズ日比谷 SC12 をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用
- 後援：総務省／外務省／観光庁／千代田区／中央区／(独)日本貿易振興機構／
国立映画アーカイブ／(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
(特非)映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
(公財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
(一社)デジタルメディア協会
- 助成：文化庁文化芸術振興費補助金(映画祭支援事業)
- プレミアムパートナー：
日本コカ・コーラ(株)／(株)カプコン／木下グループ／
(一社)日本地域コンテンツ振興協会
- パートナー：三井不動産(株)／三菱地所(株)／Prime Video／BRAVIA
- スポンサー：大和ハウス工業(株)／(株)バンダイナムコホールディングス／
(株)帝国ホテル／(株)IMAGICA GROUP／住友商事(株)／
Dolby Japan(株)／(株)大和証券グループ
湖山医療福祉グループ／DMM TV
- トランスポートパートナー：東京地下鉄(株)／東京都交通局
- コーポレートパートナー：

松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／(株)KADOKAWA／日活(株)／(一社)映画演劇文化協会／(一社)日比谷エリアマネジメント／東京ミッドタウンマネジメント(株)／DMO 東京丸の内／Ligare 大丸有エリアマネジメント協会

メディアパートナー:

(株)J-WAVE／(株)WOWOW／日本映画専門チャンネル／LINE(株)／
(株)ムービーウォーカー／ぴあ(株)／(株)ニッポン放送／Variety／
Hollywood Reporter／NTT スマートコネクト(株)／DEADLINE

フェスティバルサポーター:

全日本空輸(株)／クララ(株)／(株)エイチ・アイ・エス／(株)レントシーバー／
GEM Partners(株)

<開催概要>

第37回東京国際映画祭は、令和6年10月28日(月)から11月6日(水)までの10日間、前年に引き続き日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区にて開催され、前年対比126%の上映・イベント動員数を記録し、大盛況となった。日比谷を中心とした開催地に移転して5年目の映画祭となったが、公的な支援は例年並み、また、民間協賛社による協賛金は前年よりも増額となった全体予算での運営ができた。海外ゲスト招聘者数についても、前年度の2,174人から2,561人(内訳:審査員関係10人、作品ゲスト291人、映画祭関係者ほか70人、海外プレス468人、TIFFCOM 1,722人)と、前年対比118%となり、海外ゲストと国内映画関係者との交流も拡充し、国際映画祭としての大きな役割を果たすことができた。

また、昨年は「東京から映画の可能性を発信し、多様な世界との交流に貢献する」との開催理念(MISSION)に則り、「世界との交流」「未来の人材育成」「女性への視座」の3点に注力した。

「世界との交流」では、世界各国から監督、俳優、プロデューサー、映画祭プログラマー、ジャーナリスト、映画を学ぶ学生といった多様なゲストを迎え、日本映画界との交流を行った。

「未来の人材育成」では、交流ラウンジでの世界の映画人とのトークやアジアの学生向けのマスタークラス、中学生向けの映画制作ワークショップ等を行い、映画の未来を担う人材育成に貢献した。

「女性への視座」では、新たに設立したウィメンズ・エンパワーメント部門において、女性プログラマーが選定した女性監督による国内外の作品の上映や、女性監督たちによるシンポジウムを実施した。

上映会場に関しては、昨年と同様 TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13、丸の内 TOEI1、丸の内ピカデリー2、TOHO シネマズシャンテ、角川シネマ有楽町、シネスイッチ銀座、ヒューマントラストシネマ有楽町を活用、また、有楽町よみうりホールを追加で確保し、上映環境を整えた。また、引き続きオープニングセレモニー会場として東京宝塚劇場を使用し、東京ミッドタウン日比谷 1F の「LEXUS MEETS...」を交流ラウンジとして利用、千代田区の共催によりイベントである千代田シネマセレクションの会場としてベルサール神田、カスケードホールも利用するなど、広

域での映画祭開催が実現できた。

今年も昨年に引き続き日比谷でのオープニングレッドカーペットを三井不動産、東宝、日比谷エリアマネジメント、東京宝塚劇場、千代田区、丸の内警察の多大なるご協力のもとに実施し、観覧スペースを拡充した結果、前年対比 210%の観客・マスコミ動員数を記録し、大きな賑わいとなった。

そして、オープニングセレモニーを昨年に引き続き東京宝塚劇場で実施した。バーチャルシンガーの花譜-KAF-と声優・佐倉綾音による総合司会のもと、オープニングアクトでは、ヴォーカリスト/ヴァイオリニストのサラ・オレイン他が出演。石破茂内閣総理大臣によるビデオメッセージ、武藤容治経済産業大臣による来賓挨拶、トニー・レオン審査委員長以下のコンペティション国際審査委員の紹介、及び、白石和彌監督によるオープニング作品『十一人の賊軍』関係者による舞台挨拶が行われた。

その後、『十一人の賊軍』を TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13、TOHO シネマズシャンテ 2 にて上映。更に、オープニングパーティーを東京會館にて開催し、都倉俊一文化庁長官が登壇した。

また、「黒澤明賞」を今年度も実施。この賞を掲げる事で、引き続き世界の映画界に対し強く「日本(東京)」をアピールする事が出来た。(詳細は、自主企画(14)を参照のこと)

会期中は、上映会場、イベント会場も拡張し、国内外の映画祭関係者、プレスの皆様、一般のお客様が様々な形で交流できる場を創出する事が出来た。

最終日、クロージングセレモニーは、TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13 で実施。海外から参加の作品ゲストも多数呼ぶことができ、受賞者へのリアルな贈賞を行った。コンペティション部門の東京グランプリには、吉田大八監督による『敵』が選ばれ、最優秀監督賞、最優秀男優賞と合わせて主要 3 部門を受賞する快挙を成し遂げた。日本映画の受賞は 19 年ぶりとなる。

その結果、今映画祭の自主企画は 56 企画(うちリアル 42 企画、オンライン 14 企画)で、リアルな動員数は 181,020 人(前年対比 126%)、オンライン動員数は 2,426,072 人となった。

< 自主企画 >

(1)コンペティション部門 (共催:東京都)

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2024 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国・地域から公募、厳正な審査を経て 15 作品が選定された。

各作品の上映時、来場したゲストによる舞台挨拶、及び、Q&A を実施し、観客との交流を深めることが出来た。

○ 国際審査委員

審査委員長:トニー・レオン(俳優)

審査委員:エニエディ・イルディコー(映画監督)

橋本愛(俳優)

キアラ・マストロヤンニ(俳優)

ジョニー・トー(映画監督/プロデューサー)

○ 各賞の授賞結果

- ・東京グランプリ/東京都知事賞『敵』(監督:吉田大八) 賞金:300万円
- ・審査員特別賞『アディオス・アミーゴ』(監督:イバン・D・ガオナ) 賞金:50万円
- ・最優秀監督賞 吉田大八監督『敵』 賞金:30万円
- ・最優秀女優賞 アナマリア・ヴァルトロメイ『トラフィック』 賞金:30万円
- ・最優秀男優賞 長塚京三『敵』 賞金:30万円
- ・最優秀芸術貢献賞『わが友アンドレ』(ドン・ズージェン監督) 賞金:30万円
- ・観客賞『小さな私』(ヤン・リーナー監督)※観客による投票で最高点

- [上映作品数] 15 作品
- [動員数] 14,041 人

(2)アジアの未来部門

日本を含むアジアで作られた、新鋭監督の3本目までの長編作品を対象にした、アジア・コンペティション部門。今年、日本映画は2作品を選出、全てワールドプレミア作品である計10作品より、最優秀作品賞が選出された。

- 審査委員 ニア・ディナタ(監督/プロデューサー/脚本家)
山下宏洋(イメージフォーラム・フェスティバル ディレクター)
横浜聡子(映画監督)

○ 受賞結果

- ・作品賞『昼のアポロン 夜のアテネ』(監督:エミネ・ユルドゥルム) 賞金:100万円

- [上映作品数] 10 作品
- [動員数] 4,285 人

(3)ガラ・セレクション部門

世界の映画を代表する日本公開前の最新作(公開未定作品含む)をプレミア上映する部門。本数も厳選し、計16作品となった。(オープニング作品、クロージング作品、センターピース含む)

- [上映作品数] 16 作品
- [動員数] 8,955 人

(4)ワールド・フォーカス部門

世界の国際映画祭で話題になった作品で、日本国内の上映予定がない作品をいち早く紹介する部門。今年はラテンビート映画祭との共催による6作品や、日伊映画共同製作協定発効を記念したナンニ・モレッティ監督特集と生誕100周年マルチェロ・マストロヤンニ特集、メキシコの巨匠アルトゥーロ・リプステイン特集も上映。

- [上映作品数] 28 作品
- [動員数] 13,745 人

(5)NIPPON CINEMA NOW 部門

今年の日本映画を代表する新作セレクションを上映。特に、海外に紹介されるべき日本映画という観点を重視。また、入江悠監督の代表作 5 作品の特集上映も行った。

- [上映作品数] 12 作品
- [動員数] 3,516 人

(6)アニメーション部門

今年も藤津亮太氏にプログラミングアドバイザーを務めていただき、海外の話題作や国内の最新作を紹介。更に、シンポジウムや登壇イベントを実施し、映画祭全体の盛り上げに大きく貢献した。

- [上映作品数] 13 作品
- [動員数] 3,831 人

(7)日本映画クラシックス部門

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。本年度は、生誕 100 周年増村保造特集、没後 10 年高倉健特集、『あゝ野麦峠』4K デジタルリマスター版、『ゴジラ』4K デジタルリマスター版を上映。

- [上映作品数] 8 作品
- [動員数] 845 人

(8)ユース部門 (共催:東京都)

日本の若い映画ファンの創出、映画クリエイターの育成を目的とした部門。

小学生までが対象の「TIFF チルドレン」では、恒例となった山崎バニラ氏による活弁イベント「山崎バニラの活弁小絵巻 2024」を上映。中高生が対象の「TIFF ティーンズ」では 3 プログラムを上映。

また、「TIFF ティーンズ映画教室 2024」では、リアルなワークショップを大田区民プラザにて実施。今年は西川美和監督を講師に迎え、3 チーム計 18 名の中高生の参加を得た。

- [上映作品数] 10 作品
- [動員数] 2,018 人

(9)TIFF シリーズ部門

インターネット配信等を目的に製作されたシリーズものの秀作を日本国内での公開に先駆け、スクリーンで上映する部門。計 4 作品を上映した。

- [上映作品数] 4 作品
- [動員数] 2,106 人

(10)ウィメンズ・エンパワーメント部門 (共催:東京都)

今回新設された本部門では、女性監督による国内外の多彩な作品 7 本を上映するとともに、『劇場版ドクターX』を特別上映。また、女性監督たちによるシンポジウム「女性監督は歩き続ける」を行った。

- [上映作品数] 8 作品
- [動員数] 3,133 人

(11)国際交流基金×東京国際映画祭 co-present 交流ラウンジ

5 年目を迎えた交流ラウンジでは、世界各国・地域を代表する映画人のトークセッションを実施。また、アジアで映画を学ぶ学生を招き、黒沢清監督によるマスタークラスを行った。

- ① 10 月 29 日(火) 『十一人の賊軍』ドルビーシネマ制作過程に迫る
- ② 10 月 29 日(火) 是枝裕和×パヤル・カパーリヤー対談
- ③ 10 月 30 日(水) エリック・クー×マイク・ウィルアン 対談
- ④ 10 月 31 日(木) ジョニー・トー×入江悠 対談
- ⑤ 11 月 1 日(金) Nippon Cinema Now トークセッション「私たちの映画の作り方」
- ⑥ 11 月 1 日(金) 「フィルム・フロンティア海外渡航プログラム」紹介 海外渡航プログラム
1 期選考結果発表
- ⑦ 11 月 3 日(日) ニア・ディナタ×三島有紀子 対談
- ⑧ 11 月 4 日(月) ロドリゴ・ソロゴイェン監督マスタークラス
(動員数) 1,230 人(合計)
(オンライン視聴者数) 6,118 人(合計)
- ⑨ 11 月 2 日(土) アジア映画学生交流 マスタークラス
講師:黒沢清(映画監督) モデレーター:関口裕子
(動員数) 87 人
(オンライン視聴者数) 580 人

(12)エシカル・フィルム賞

本年度、全エントリー作品の新作の中から「人や社会・環境を思いやる考え方・行動」と定義した「エシカル」の基本理念に合致する優れた作品を選出。賞金 20 万円とトロフィーが授与された。

- [審査委員長] 斎藤工(俳優/映画監督)
- [審査委員] 第 37 回東京国際映画祭 学生応援団
佐々木湧人(筑波大学大学院 1 年)

縄井 琳(国際基督教大学大学院 1 年)

河野はな(慶應大学 3 年)

- [受賞者] 『ダホメ』(監督:マティ・ディオップ)

(13)第 37 回東京国際映画祭 特別功労賞

永年にわたり国内外を含めた映画界への貢献が目覚ましい方を顕彰した。

- [受賞者] タル・ベーラ(フィルムメーカー)

(14)黒澤明賞授賞式、及び、「黒澤明の愛した映画」上映

日本が世界に誇る故・黒澤明監督の業績を長く後世に伝え、新たな才能を世に送り出すため、世界の映画界に貢献した映画人、映画界の未来を託していきたい映画人たちを 4 人の選考委員により選考し、顕彰した。授賞式の後に、晩さん会が催された。また、「黒澤明が愛した映画」として 5 本の古今東西の名作を別途、上映した。(動員数:652 人)

- [選考委員] ※敬称略、順不同
山田洋次(映画監督)、奈良橋陽子(キャスティング・ディレクター)、
川本三郎(評論家)、市山尚三(TIFF プログラミングディレクター)
- [受賞者] 三宅唱(映画監督)、フー・ティエンユウ(映画監督)

(15)アニメ・シンポジウム

「アニメーション監督への道」「日本アニメの新世代」「宇宙戦艦ヤマト」の歴史的意義」という 3 つのテーマについてのシンポジウムを実施し、その模様をオンライン配信。

- [企画数] 3 企画
- [リアル動員数] 332 人
- [オンライン視聴者数] 7,771 人

(16)上映作品の舞台挨拶のオンライン配信

上映時のリアル登壇挨拶も同時に配信・アーカイブの形を取った。従来は、映画を鑑賞した方しか見るのできない模様を幅広く鑑賞いただくことが出来た。

- [企画数] 91 企画
- [オンライン視聴者数] 141,892 人

(17)第 37 回東京国際映画祭@日比谷ステップ広場 屋外上映会

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場に高精細の LED パネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を開催。

- [開催期間] 10 月 29 日(火)～ 11 月 6 日(水)
- [上映作品数] 28 作品

- [動員数] 4,649 人

<共催・提携企画>

(1)TIFF/NFAJ クラシックス 映画監督 吉田喜重

吉田喜重監督の劇映画 10 本とドキュメンタリー 3 本をすべて英語字幕付きで上映。

主催:国立映画アーカイブ/東京国際映画祭

協力:現代映画社/松竹株式会社/国際交流基金

会期:10月29日(火)~11月3日(日)

会場:国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU(2階)

- [上映作品数] 13 作品
- [動員数] 999 人

(2)千代田区・第 37 回東京国際映画祭共催企画「千代田シネマセレクション」

千代田区民が対象の上映会。過去の東京国際映画祭上映作品他から 8 作品を選定、2 作品は監督を呼んでの Q&A も行った。

会期:9月28日(土)・29日(日)・10月4日(金)・5日(土)

会場:ベルサール半蔵門(9/28、29)、カスケードホール(10/4、5)

- [上映作品数] 8 作品
- [動員数] 1,062 人

(3)第 25 回東京フィルメックス

コンペティション部門 10 作品、特別招待作品部門 11 作品に加え新作日本映画を紹介するメイド・イン・ジャパン部門で 4 作品を上映。

会期:11月23日(土)~12月1日(日)

会場:丸の内 TOEI/ヒューマン・トラストシネマ有楽町

- [上映作品数] 30 作品
- [動員数] 11,784 人

(4)「PFF アワード 2024」グランプリ受賞作品上映 10月31日(木)

PFF アワード 2024 グランプリ作品『I AM NOT INVISIBLE』、審査員特別賞作品『松坂さん』『END of DINOSAURS』を上映。上映後、監督 3 名によるトークを実施。

- [動員数] 60 人

(5)「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2024」受賞作品上映 11月4日(月)

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2024 の国際コンペティション長編部門審査員特別賞と SKIP シティアワードを W 受賞した『嬉々な生活』を上映し、上映後に監督と出演者 3 名による

Q&A を実施。

- [動員数] 79 人

(6)日本映画監督協会新人賞、上映とトーク 11月5日(火)

工藤将亮監督作品『遠いところ』の上映に続き、工藤監督と主演俳優の花瀬琴音、本木克英監督協会理事長によるトークを行った。

- [動員数] 109 人

(7)日本映画監督協会シンポジウム「映適ガイドラインで現場はどう変わったか2」

10月30日(水)

中村義洋監督に、撮影監督、照明、録音、美術、スクリプター、装飾担当者も参加し語り合った。
会場:GLOBAL VILLAGE 有楽町ハウス

- [動員数] 55 人

(8)MPA セミナー 10月30日(水)

海外作品の日本での撮影、AIの展望、VFXをテーマに3つのセミナーを開催。観光庁の後援で、ロケ地紹介ショートフィルム・コンペティション受賞式も実施。

会場:東京ミッドタウン日比谷 BASE Q

- [動員数] 160 人
- [オンライン視聴者数] 556 人

(9)ケリング「ウーマン・イン・モーション」 11月1日(金)

映画界で活躍する女性たちに光を当てるプログラム。

会場:TOHO シネマズ日本橋

出演者:是枝裕和(映画監督)、菊地凜子(俳優)、磯村勇斗(俳優)、岡野真紀子(プロデューサー)

- [動員数] 246 人

(10)第4回みなのシネマフェスタ 11月24日(日)~12月1日(日)

港区内 5 地区 6 会場で開催し、障害者や未就学児との観覧など、幅広い方にお越しいただいた。

会場:赤坂区民センターほか

- [上映作品数] 6 作品
- [動員数] 605 人

(11)京都フィルムメーカーズラボ 12月3日(火)~12月8日(日)

選抜された国内外の若手映像作家が撮影所で時代劇撮影の実習を行う「ハンズオン時代劇」や、映像制作者がレクチャーを行う「マスターズセッション」が行われた。

会場：松竹撮影所、東映京都撮影所、京都文化博物館他

- [動員数] 1,800 人

(12)MPTE AWARDS 2024 第 77 回表彰式

11月1日(金)

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。

会場：時事通信ホール

- [動員数] 108 人

(13)映文連 国際短編映像祭 映文連アワード 2024 11月27日(水)～11月29日(金)

最優秀作品(グランプリ)の『名盤ドキュメント キャンディーズ「年下の男の子」彼女たちの J ポップ革命』など 27 作品を上映。

会場：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会)

- [上映作品数] 27 作品
- [リアル動員数] 900 人
- [オンライン視聴者数] 100 人

(14)第 46 回びあフィルムフェスティバル

9月7日(土)～9月21日(土)

PPF アワード、PPF スカラシップの上映、増村保造監督、80～90 年代の自主映画の特集を実施。

会場：国立映画アーカイブ

- [上映作品数] 62 作品
- [リアル動員数] 5,216 人
- [オンライン視聴者数] 1,807 人

(15)ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2024 秋の国際短編映画祭

9月26日(木)～11月7日(木)

グランプリ『せん』を含む受賞作を上映。TIFF 連動「ウイメン・イン・フォーカス」、スイス・韓国特集、クリエイターセミナーが開催された。

会場：オンライン/東京都写真美術館/ユーロライブ/ユナイテッドシネマアクアシティお台場

- [上映作品数] 67 作品
- [リアル動員数] 1,150 人
- [オンライン視聴者数] 3,612 人

(16) 2024 東京・中国映画週間 10月22日(火)～10月29日(火)

「2024 東京・中国映画週間」を開催し、パワーに溢れた最新中国映画をお届けした。

会場:TOHO シネマズ日本橋/有楽町朝日ホール

- [上映作品数] 13 作品
- [リアル動員数] 2,902 人
- [オンライン視聴者数] 2,941 人

(17)第18回田辺・弁慶映画祭 11月8日(金)～11月10日(日)

コンペティション部門作品 8 作品、招待作品 6 作品の計 14 作品を上映会場:紀南文化会館

- [動員数]2,687 人

(18)第21回ラテンビート映画祭 IN TIFF 10月29日(火)～11月6日(水)

6 作品をワールド・フォーカス部門にて上映。ドミニカから『ペペ』の監督、『叫び』から監督と主演女優が来日。

(19)サヤマ de シネマ vol.8 9月21日(土)～22日(日)

西武文理大学の学生による映画祭。初日には『PERFECT DAYS』の共同脚本・プロデューサーの高崎卓馬さんのトークセッションを実施、大盛況のうちに終了。

会場:狭山市市民会館小ホール

- [上映作品数] 4 作品
- [動員数] 956 人

< 顕彰・助成 >

- ①東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ②アジアの若手の優秀作品に対する顕彰(アジアの未来 作品賞)

< 運営 >

①自主企画の実施

先述の通り

②上映会場、各種会場

日比谷・有楽町・銀座地区をメイン会場とした。

・主要上映会場:

TOHO シネマズ日比谷スクリーン 12・13、TOHO シネマズシャンテ(2 スクリーン)、角川シネ

マ有楽町、ヒューマントラストシネマ有楽町 Theater1、シネスイッチ銀座(2スクリーン)、丸の内 TOEI スクリーン 1、丸の内ピカデリーTheater2、有楽町よみうりホール、ベルサール神田、カスケードホール

・その他の会場:

東京ミッドタウン日比谷

日比谷三井カンファレンス:映画祭事務局、控室、プレスルーム

BASE Q:各種セミナー、ボランティア控室、弁当・ケータリング

LEXUS MEETS...:交流ラウンジ会場

日比谷ステップ広場:屋外上映会場

東京宝塚劇場、帝国ホテル、東京會館:各種イベント

有楽町駅前広場:チケットセンター、インフォメーションセンター等

③入場料金

- オープニング作品、クロージング作品 一般:2,600円 学生前売・当日:2,100円
- コンペティション 一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- アジアの未来 一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- ガラ・セレクション 一般:2,000円 学生前売:1,600円 学生当日:700円
- ワールド・フォーカス(「ダイレクト・アクション」「ファントスマリア」)
一般:2,500円 学生前売:2,000円 学生当日:700円
- ワールド・フォーカス(マルチェロ・マストロヤンニ特集、ナンニ・モレッティ監督特集)
一般:1,600円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- ワールド・フォーカス(上記以外) 一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- NIPPON CINEMA NOW(監督特集 入江悠)
一般:1,600円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- NIPPON CINEMA NOW(上記以外)
一般:2,000円 学生前売:1,600円 学生当日:700円
- アニメーション(「メモワール・オブ・スネイル」「ギル」「オリビアと雲」)
一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- アニメーション(「ルックバック」) 一般:1,700円 学生前売:1,700円 学生当日:1,700円
- アニメーション(「宇宙戦艦ヤマト劇場版 4K リマスター」)
一般:1,600円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- アニメーション(映画「窓ぎわのトットちゃん」「化け猫あんずちゃん」「野生の島のロズ」)
一般:2,000円 学生前売:1,200円 学生当日:700円
- アニメーション(「FLOW」) 一般:1,800円 学生前売:1,200円 学生当日:700円
- アニメーション(上記以外) 一般:2,000円 学生前売:1,600円 学生当日:700円
- ユース(ティーンズ/チルドレン) 一般:1,800円 学生前売:800円 学生当日:700円

- ユース(映画教室) 一般:1,600円 学生前売:800円 学生当日:700円
- TIFF シリーズ 一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- ウィメンズ・エンパワーメント(「劇場版ドクターX」「徒花-ADABANA-」)
一般:2,000円 学生前売:1,600円 学生当日:700円
- ウィメンズ・エンパワーメント(上記以外)
一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- 日本映画クラシックス(「赤い天使」「陸軍中野学校」「あゝ野麦峠」)
一般:1,800円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- 日本映画クラシックス(上記以外) 一般:1,600円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- サチライト・ピクチャーズ設立30周年記念一般:1,600円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- 福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト×東京国際映画祭2024
～巨匠タル・ベーラとみる福島浜通り～
一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- サモ・ハン マスタークラス 一般:1,600円 学生前売:1,200円 学生当日:700円
- 黒澤明の愛した映画 一般:1,600円 学生前売:1,300円 学生当日:700円
- 特別上映(「対外秘」「日本のシドニー」)
一般:2,000円 学生前売:1,600円 学生当日:700円
- 特別上映(千里江山図) 一般:1,800円 学生前売:1,400円 学生当日:700円
- 提携企画上映 一般:1,600円 学生前売:1,200円 学生当日:700円

④会期中の情報発信

・有楽町駅前広場の展開

映画祭期間中、有楽町駅前広場に、インフォメーションセンター、及び、チケットセンターを設置。同時に、上映作品のポスターの掲示や LED ビジョンを設置し、映画祭に関する情報発信の場とした。

・東京ミッドタウン日比谷 地下広場の展開

映画祭期間中、同時期実施の日比谷シネマフェスティバルと共に、ミッドタウン日比谷の地下広場空間に映画作品のポスター掲示等を行い、賑やかさを演出。

・東京ミッドタウン日比谷 アトリウム

映画祭初日のレッドカーペット終了後、レッドカーペットをアトリウム内に敷き、始点の映画祭ロゴタワーを設置。また上映作品のポスターボードも新設し、レッドカーペット参加俳優のサイン入りボードも設置。

・東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場における屋外上映の実施

自主企画(17)を参照。

⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグ等を販売した。

⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定やオープニングレッドカーペット視聴の権利やオープニングセレモニーへの参加の権利等をうまく活用し、高額設定の枠は早々に売り切れるなど、大幅な参加者増及びクラウドファンディング開始後、最高額を達成する事が出来た。

<広報活動>

1.メディア登録者数

- 国内メディア:1,655 名 海外メディア 475 名
- パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施。
- ※渡航制限により海外プレスのビザサポート等渡航に関わる支援はなし。

2.国内宣伝パブリシティ

- 露出数:11,546(2024 年 12 月 12 日時点)
 - TV 媒体広告換算値:9 億 9234 万 1741 円
 - WEB 媒体広告換算値:90 億 5887 万 7954 円
- 例年通りオープニング時のレッドカーペットは爆発的な露出となったが、クロージングでも邦画作品が受賞したことで例年以上の露出となった。

3.海外宣伝パブリシティ

- 露出数:5,331
- トニー・レオン氏の審査委員長就任が大きなニュースとなったことや、コンペの中国作品に中国の人気俳優が出ていたこともあり、中華圏での露出が増加。海外の 3 大業界誌の中の Variety、The Hollywood Reporter 以外にアメカの DEADLINE 誌がメディアパートナーとして入り、多面的な展開を行えた。

4.記者会見

- ラインナップ発表会見 2024 年 9 月 25 日 BASE Q
- 受賞者記者会見 2024 年 11 月 6 日 BASE Q

5.国内宣伝広告 ……J-WAVE 各種番組出演・告知、WOWOW 過去作特集、LINE LIVE 企画、Movie Walker 特集・バナー広告、ぴあ特集・バナー広告、ニッポン放送番組出演・ラジオ CM・バナー広告

6.海外宣伝広告 ……Variety、Screen、The Hollywood Reporter（紙面およびバナー
広告）

7.海外プレス招聘……アメリカ、イギリス、フランス、ギリシャ、イタリア、スペイン、中国、香港、韓
国、台湾、タイ、マレーシア、インドネシアから 33 名を招聘。

8. 宣材物

予告編……2024 年 9 月 21 日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル…コシノジュンコ氏デザイン監修。菊地凜子さんを映画館で撮り下ろし

紙媒体……プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

9.公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開に力を入れ、X(旧ツイッター)のフォロワー数が 6 万人を突破。YouTube の公式
番組「TIFF チャンネル」もチャンネル登録者数が 4 万人を超え、会期外も含めて戦略的に国
内外へと発信。

<各 SNS フォロワー数>

○ X:61,318 / X(ENG):2,230

○ Facebook:23,895

○ LINE:35,924

○ Instagram:17,676

○ YouTube:43,284

10.Cyber TIFF

東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通
して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネ
ットへの配信を実施。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発
信に寄与。

（東京ミッドタウン日比谷での広報活動）

会期初日の 10 月 23 日(月)より最終日の 11 月 1 日(水)まで、東京ミッドタウン日比谷の屋外
大型 LED ビジョン裏面をはじめ華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑
わいを演出した。同様のビジュアルを館内のデジタルサイネージで展開した。また館内地下通路
では数多くの作品ポスターを掲出した。

（銀座・日比谷・有楽町地区での広報活動）

各所のデジタルサイネージにおいて、映画祭のビジュアルとともに作品情報、イベント情報などを
発信した。また同様のビジュアルを街頭フラッグで展開し、映画祭の賑わいを演出した。

① ミッドタウン日比谷正面入口ビジョン

② ミッドタウン日比谷館内ビジョン

③ 日比谷ゲートビジョン

- ④ 都営ステーションビジョン日比谷
- ⑤ 地下鉄連絡エスカレーター上部コルトン
- ⑥ 日比谷仲通りフラッグ
- ⑦ 丸の内ビジョン
- ⑧ JR 有楽町駅前広場特設ビジョン、作品ポスターボード
- ⑨ ミッドタウン日比谷アトリウム作品ポスターボード

(東京メトロでの広報活動)

東京メトロのご協力のもと、早いところで、10月2日～映画祭最終日まで、地下鉄内の車内広告をはじめ、映画祭実施地区周辺でのビジュアル展開、開催告知を行った。

- ① 東京メトロ全線車内窓上部広告
- ② 地下鉄構内 MCV ビジョン(大手町駅メインに主要駅)
- ③ 駅張ポスター(14 駅 36 枚)
- ④ 駅張ポスター大手町プレミアム(4 面)
- ⑤ 駅張ポスタープレミアム(有楽町駅・日比谷駅)

(東京都交通媒体での広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月2日から11月3日までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出
- ③ 都バス窓上広告掲出
- ④ 車内「チカッ都ビジョン」による映画祭 CM 上映

2. TIFFCOM 事業

- 名 称: TIFFCOM 2024
主 催: 経済産業省／総務省／(公財)ユニジャパン
共 催: 第 37 回東京国際映画祭
期 間: 2024 年 10 月 30 日(水)～11 月 1 日(金)、3 日間
企 画: 映画・テレビ・アニメーションマーケット
原作・IP マーケット／企画・共同製作マーケット／セミナー
会 場: 東京都立産業貿易センター浜松町館
後 援: ※五十音順
(一社)映画産業団体連合会
(一社)外国映画輸入配給協会
(一社)コンピュータエンターテインメント協会
(一財)デジタルコンテンツ協会
(協組)日本映画製作者協会
(一社)日本映画製作者連盟
(一社)日本映像ソフト協会
(一社)日本経済団体連合会
(一社)日本動画協会
(独)日本貿易振興機構
(一社)日本民間放送連盟

<開催概要>

TIFFCOM2024 は、映画、TV、アニメーションのすべてのコンテンツがそろったアジア随一の国際マーケットとして、昨年に引き続き浜松町の東京都立産業貿易センター 浜松町館で開催。国内外から 283 件の出展、4,000 人を超える参加者があった。参加者のうち 42%が海外からの参加となっている。

(実績)

- 参加国・地域 38 の国と地域
- 出展団体 283
日本 116、中国 33、台湾 50、韓国 34、タイ 26 等
※ 初出展 オーストリア

- 総参加者 4,088 人 うち海外 1,722 人(42.1%)
- ビジター 1,071 人 うち海外 652 人(60.9%)

日本 419、韓国 151、中国 105、台湾 68、欧州 72
北米 68、香港 56、タイ 43 等

- 参加者業種 配給 26.5%、制作・製作 17.2%、放送 10.9% 配信 8.7%他
- 参加目的 購入 59.1%、共同制作・製作 39.9%
- 参加者の取扱いコンテンツ
 - ・映画 30.3%
 - ・TV(アニメ) 21.4%
 - ・TV(実写) 21.1%
 - ・映画(アニメ) 7.5%
- 出展者業種
 - ・制作／製作 23.7%
 - ・放送 23.7%
 - ・配給 13.2%
 - ・セールス 6.4%
- 出展者のセールス以外の活動
 - ・国際共同製作 48.9%
 - ・ローカライズ 19.1%
 - ・書籍の映像化権 17.0%
 - ・IP 14.9%
 - ・リメイク 14.9%

参加目的が多様になり、売買に加えて国際共同製作、業界最新情報セミナー、ネットワーキングなどを目的とした業界関係者も多数訪れ、前年比 6%増の計 4 千人以上の参加者で賑わった。

(重点施策)

(1)IP マーケット新設 Tokyo Story Market

原作物(ストーリー)の映像化に特化し、原作を保有する日本の出版社と海外の映像プロデューサーを繋ぐ【Tokyo Story Market】に今年は昨年より 2 社多い 6 社が参加し、11 カ国・地域より 27 名のプロデューサーが参加し、96 件のミーティングを実施した。

(2)企画マーケット強化 Tokyo Gap-Financing Market

今年 5 回めの開催となった【Tokyo Gap Financing Market】は 15 企画(実写 11、アニメ 4)に加えて、日伊映画共同製作協定発効を受けイタリアからアジアとの共同製作をめざす 5 企画(実写 3、アニメ 2)を選出し、計 20 企画に対し、99 名のインベスターが参加、3 日間にわたり合計 399 件のミーティングを実施した。

(3)セミナー

会場を増設して計 16 枠を設け、生成 AI の動向、国際共同製作や海外戦略を中心に、日本のコンテンツ業界の最新情報の発表が行われた。また中国、香港、韓国、タイなどアジア各国による豪華登壇ゲストを伴うプレゼンテーションが行われた。

1. キーノートスピーチ 放送コンテンツと IP 戦略
主催：一般社団法人放送コンテンツ海外展開促進機構 (BEAJ)
2. Special Session
生成 AI が映画にもたらすチャンスとリスク、未来像
主催：(公財)ユニジャパン
3. Special Session
日本のアニメーションの海外展開、未来への展望
第1部：2023 年の日本のアニメの海外売上と未来予測
第2部：日本のアニメ制作会社の海外展開及び今後の展望
主催：一般社団法人 日本動画協会
4. 持続可能な成功の道：中国の急成長市場における知的財産とコンテンツ戦略
主催：Road Pictures Co., Ltd.
5. ジャンル、時間、テーマを超えるタイ BL&GL コンテンツ
主催：タイ国大使館商務参事官事務所
6. 地方から海外へのコンテンツ発信
主催：一般社団法人放送コンテンツ海外展開促進機構 (BEAJ)
7. 台湾ドラマ 記者発表【招待制】
8. Co-Pro セミナー イタリア助成ケーススタディと国際共同製作プロジェクト紹介
主催：イタリア文化省映画オーディオビジュアル局 チネチッタ / (公財)ユニジャパン
9. Linmon Production 2025-2026 中国歴史ドラマ制作 ラインナップ発表
主催：Linmon Mmedia International Co., Limited
10. 香港-アジア映画共同製作助成制度 受賞プロジェクトの成功事例紹介
カンファー映画：過去、現在、そして未来
主催：香港特別行政区政府 文創産業發展処、香港貿易發展局
11. Exclusive Korean Drama Showcase
独占 韓国ドラマ ショーケース
主催：LG Uplus
12. 外国映像作品向け韓国の支援プログラムの紹介
主催：韓国フィルムコミッション & インダストリーネットワーク (KFCIN)
13. 【フジテレビ】グローバル事業戦略発表会 2024

主催:株式会社フジテレビジョン

14. メディアグループからグローバルコンテンツカンパニーへ～グローバルビジネス元年から始める TBS の世界戦略

主催:株式会社 TBS ホールディングス

15. Tokyo Docs ショートドキュメンタリーショーケース

主催:NPO 法人 Tokyo Docs

16. MPA/DHU/TIFFCOM マスタークラス・セミナー&ピッチング・コンテスト 2024

主催:モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)/デジタルハリウッド大学(DHU)/TIFFCOM

3. 国際支援

<国際展開支援>

(1)海外の国際映画祭・映画賞への出品支援(文化庁の委託事業)

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

(令和 6 年度支援実績)

① 支援内容と支援件数

- | | | |
|----------------------------------|---------|---------|
| (A)支援対象映画祭公式部門出品への支援 | 申請件数 30 | 採択件数 30 |
| (B)3 大映画祭長編メインコンペティション部門出品への支援 | 申請件数 0 | 採択件数 0 |
| (C)支援対象映画祭映画祭公式部門出品への支援(個人からの申請) | 申請件数 19 | 採択件数 18 |
| (D)クラシック(デジタルリマスター3大映画祭出品時字幕制作) | 申請件数 3 | 採択件数 3 |

② 選考

(A)前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

- | | | |
|-------------|---------|---------|
| ・前期(5月～7月) | 申請件数 19 | 採択件数 18 |
| ・中期(8月～11月) | 申請件数 23 | 採択件数 23 |
| ・後期(12月～3月) | 申請件数 10 | 採択件数 10 |

(B)選考委員会のメンバーは以下の5名に委嘱した。

- ・坂野 ゆか(川喜多記念映画文化財団常務理事)・
- ・新藤 次郎(日本映画製作者協会代表理事)
- ・星野 哲(日本映画製作者連盟事務局長)

- ・石飛 徳樹(朝日新聞社編集委員)
- ・林 加奈子(元 TOKYO FILMeX ディレクター)

(2)日本映画・映像コンテンツの海外発信支援(文化庁の委託事業)

(主要映画見本市への「ジャパンプース」出展)

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画の情報発信拠点とする他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者に提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開活動を支援している。

○ 出展した映画祭

- | | |
|------------------------------------|------------|
| (A)カンヌ国際映画祭(開催日程 5月14日～25日) | 公式出品作品 5本 |
| 同マーケット (開催日程 5月14日～22日) | |
| (B)アヌシー国際アニメーション映画祭(開催日程 6月9日～15日) | |
| 同マーケット (開催日程 6月11日～14日) | 公式出品作品 21本 |
| (C)トロント国際映画祭(開催日程 9月5日～15日) | 公式出品作品 4本 |
| (D)ベルリン国際映画祭(開催日程 2月13日～23日) | 公式出品作品 6本 |
| 同マーケット (開催日程 2月13日～21日) | |

ジャパンプースの設置のほかに、若手日本人監督のプロモーションと交流を目的とした「日本人新人監督海外プロモーション」を実施した。期間中、業界誌 Screen International への日本映画の特集記事や「日本人新人監督海外プロモーション」参加監督の紹介記事の掲載を行った。

(3)国際共同製作支援(経済産業省の委託事業)

(二国間協定における取扱機関としての事務局業務)

弊財団は日中および日伊映画共同製作協定の取扱機関として指定を受けており、申請の受付および書類審査を行い、所管当局である外務省、経産省、文化庁による承認の事務局となる。

承認手続きに関しては、文化庁の「国際共同製作への支援」との合同説明会を実施、承認申請の書類審査を継続して行った。

- ①応募要項、応募様式の作成
- ②申請予定者向けの説明会開催概要

「日中・日伊映画共同製作協定承認／国際共同製作映画支援 合同説明会」

・日時:令和6年12月2日(木) 16:30~17:30

開催方法:オンライン会議システム

・参加者: 65人

・参加省庁:経済産業省、外務省、文化庁

③承認審査会

・日伊共同製作協定審査会 令和7年1月23日(木) 16:30~ 1件

・日伊共同製作協定審査会 令和7年4月30日(木) 18:00~ 1件

(受付令和6年度分)

審査委員は以下の4名に委嘱した。

・加藤君人 ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士

・古賀俊輔 株式会社ザフル 代表取締役

・田島 健 株式会社バジェットコントロール 代表取締役

・富山省吾 日本映画大学 理事長

<情報発信>

(1)海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database(JFDB)の運営

(国際交流基金との共同事業)

主に21世紀の日本映画に関して、公式日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。令和6年には日本国内で1週間以上劇場公開された作品を中心に、約200本を新規掲載し、JFDBアーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で約7,000作品以上のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look”や、年間の特筆すべき作品を特集したページも掲載している。

(2)海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布

(文化庁の委託事業)

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、令和6年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

(Japanese Film 2025の概要)

① 配布数: 1,500部(冊子)及びデジタル版

② 配布先: カヌヌ、アヌシー、TIFFCOM(東京)、ベルリン、トロント、香港の各映画祭、見本市開催時に配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付

③ 掲載作品: 選考委員会により80作品を選出し、日本語・英語併記で紹介

- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟より協力を得て各種統計情報を掲載

<人材育成>

(1)「第46回 PFF」の共催(川喜多記念映画文化財団の補助事業)

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第46回ぴあフィルムフェスティバル(PFF)」に共同主催として参画した。

(開催概要)

- ・会期：2024年9月7日(土)～21日(土)
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：(一社)PFF、(独)国立美術館 国立映画アーカイブ、
(公財)川喜多記念映画文化財団、(公財)ユニジャパン

(最終審査員)

- ・小田香(フィルムメーカー/アーティスト)、
- ・小林エリカ(作家/アーティスト)
- ・高崎卓馬(クリエイティブディレクター/小説家)
- ・仲野太賀(俳優)
- ・吉田恵輔(映画監督)

(受賞結果)

- ・グランプリ 『I AM NOT INVISIBLE』 監督：川島佑喜
- ・準グランプリ 『秋の風吹く』 監督：稲川悠司
- ・審査員特別賞 『END of DINOSAURS』 監督：Kako Annika Esashi
『これらが全て Fantasy だったあの頃。』 監督：林 真子
『松坂さん』 監督：畔柳太陽
- ・エンタテインメント賞(ホリプロ賞) 『さよならピーチ』 監督：遠藤愛海
- ・映画ファン賞(ぴあニスト賞) 『ちあきの変拍子』 監督：白岩周也、福留莉玖
- ・観客賞 『あなたの代わりにあなた展』 監督：山田 遊

(東京国際映画祭での特別提携企画)

- ・PFF アワード 2024 受賞作品上映